津山朝日新聞
2014年（平成26年）2月12日　（水曜日）

美作国建国1300年関連や観光…

県内外71人頭ひねる

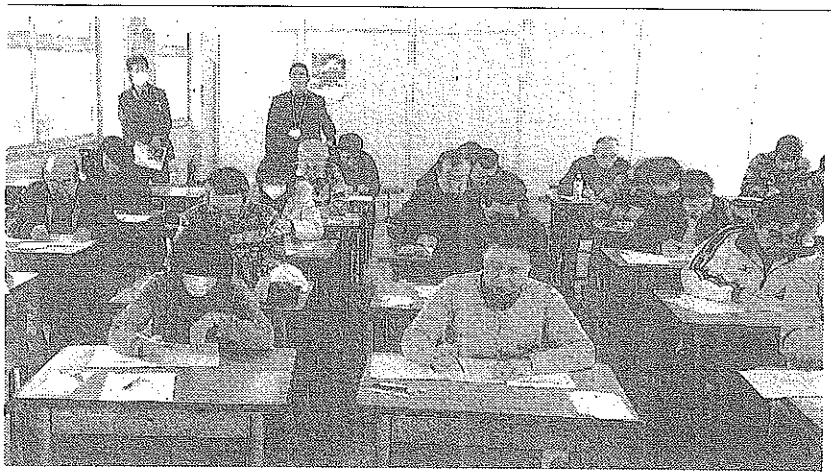
50問に挑む 第3回つやま検定

歴史や観光など津山について正しく理解してもらおうと「第3回美作の国つやま検定」が11日、津山商業高校（山北）で実施された。別日程でも行われ、合わせて71人の市民らが挑戦した。

25日合格発表

同校商業クラブの生徒が中心となり、市観光協会、津山商工会議所の関係者で実行委を組織し主催。市内をはじめ、岡山、赤磐市など、遠くは石川、熊本県の18歳～80代が参加した。そのうちの3分の1がリピーターだった。

生徒が問題を考え、津山洋学資料館長らが監修。択一式で津山に関する歴史、洋学、観光、暮らしなどから出題。今回は「美作国建国1300年記念の『ご当地おもてなし弁当』（1300円）は何種類あるか」といった同1300年に関する問題が50問中3割以上出された。1時間の制限時間で受験者は皆、真剣な表情で取り組んでいた。



真剣な表情で問題に取り組む受験者

生徒7人は、同商議所青年部の人たちと一緒に、受け付けや試験会場への誘導、試験監督などを行った。

35問以上正答を合格とし、合格発表は25日、ホームページに受験番号を掲載するとともに本人に通知。合格者には認定証を交付する。

部長の山本勇太さん（3年）は「皆さんに気持ちよく受験してもらえるよう協力して運営。このすばらしい検定をもっとPRし、さらに多くの人に受けてもらえるよう頑張りたい」と話していた。